

### 中学校武道場(仮)に関する地方負担

(イメージ)

#### 平成21年度補正予算を活用する場合

●文部科学省「安全・安心な学校づくり交付金」で整備する場合

国庫補助(補正予算)1/2 (50%)	地域活性化・公共投資臨時交付金 (45%)
------------------------	--------------------------

財政力を考慮し  
平均地方負担5%

●林野庁「森林整備加速化・林業再生事業費補助金」で木造武道場を整備する場合

国庫補助(補正予算)定額	臨時交付金 (残額を充当)
--------------	------------------

財政力を考慮し  
平均地方負担数%

●文部科学省「安全・安心な学校づくり交付金」と林野庁の「森林整備加速化・林業再生事業費補助金」を活用して整備する場合

国庫補助(補正予算)定額	臨時交付金 (残額を充当)	国庫補助(補正予算)50%	臨時交付金 45%
--------------	------------------	---------------	--------------

林野庁【内装】

文科省【内装以外】

財政力を考慮し  
平均地方負担数%

※臨時交付金の詳細については未定であり、上記は想定されるパターンを示したものです。

# 平成24年度から 武道が必修化

## 全ての中学1・2年生が対象

### 文科省が武道場 整備で助成措置

平成20年3月に中学校の学習指導要領が改訂されたことに伴い、武道が必修化されました。新学習指導要領が完全に実施されるのは、24年度から。完全実施を迎えると、中学校に通う全ての1年生と2年生は、剣道や柔道を学ぶこととなります。

武道場の整備については、これまでにも文部科学省が「安全・安心な学校づくり交付金」を活用し、整備費の3分の1を補助してきました。しかし、武道の必修化は3年後に迫り、これまで以上に武道場の整備が急がれる状況にあります。

(参考)

中学校保健体育における武道の必修化について

平成18年12月 教育基本法改正  
教育の目標として、「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。」と規定される。

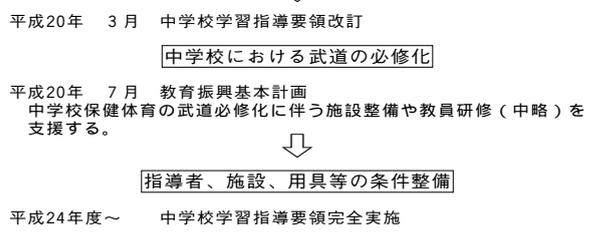
平成20年1月 中央教育審議会答申  
「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について(答申)」

⑩ 体育、保健体育  
(i) 改善の基本方針  
武道については、その学習を通じて我が国固有の伝統と文化に、より一層触れることができるよう指導の在り方を改善する。

(ii) 改善の具体的事項  
(中学校：保健体育)  
(ア) 体育分野については、小学校高学年からの接続及び発達段階のまとまりを踏まえ、体育分野として示していた目標及び内容を、「第1学年及び第2学年」と「第3学年」に分けて示すこととする。また、多くの領域の学習を十分させた上で、その学習体験をもとに自らがさらに探求したい運動を選択できるようにするため、第1学年及び第2学年で、「体づくり運動」、「器械運動」、「陸上競技」、「水泳」、「球技」、「武道」、「ダンス」及び知識に関する領域をすべて履修させ、第3学年では「体づくり運動」及び知識に関する領域を履修させるとともに、それ以外の領域を対象に選択して履修させることを開始する。第3学年における選択については、運動に共通する特性や魅力に応じて、「器械運動」、「陸上競技」、「水泳」、「ダンス」のまとまりと「球技」、「武道」のまとまりからそれぞれ選択して履修することができるようにする。(省略)  
なお、すべての生徒に履修させることとなる「武道」と「ダンス」については、これまで以上に安全の確保に留意するとともに、必要な条件整備に努めるなどの取組が必要である。

また、21年度補正予算の成層、軽減する措置が講じられたところ。また、21年度補正予算の成層、軽減する措置が講じられたところ。

また、21年度補正予算の成層、軽減する措置が講じられたところ。



立に伴い、同交付金は45億円へと拡充されたほか、内閣府計上の「地域活性化・公共投資臨時交付金」も新設され、市町村への支援策が強化されました。

公共投資臨時交付金は、武道場の新築に対しても活用が可能となっています。したがって、「安全・安心な学校づくり交付金」「地域活性化・公共投資臨時交付金」を併用した場合、市町村の事業費負担額は、総額の5%程度にまで軽減することが可能となります。

「中学校武道場(新築)」に関するお問い合わせ先

文部科学省スポーツ・青少年局企画・体育施設係

☎ 03 6734 2672

議事人事

議長

栗原 加藤雄八郎(5・1)

伊豆の国 土屋源由(5・1)

関 佐藤善一(5・1)

朝倉 柴田裕隆(5・1)

豊後大野 生野照雄(5・1)

大町 荒澤 靖(5・7)

大和 松川 清(5・7)

大垣 野村 弘(5・7)

桜井 札辻輝巳(5・7)

美作 万殿紘行(5・7)

延岡 後藤哲朗(5・7)

坂井 大和久米登(5・8)

鶴ヶ島 藤原建志(5・8)

御所 下村紘一(5・8)

津山 森下寛明(5・8)

三原 高下正則(5・8)

丸亀 高木新仁(5・8)

郡山 熊谷和年(5・11)

諏訪 小林佐敏(5・11)

横須賀 山下 薫(5・11)

沼田 布施辰二郎(5・11)

茂原 常泉健一(5・11)

山武 行木三郎(5・11)

春日井 梶田晃男(5・11)

安城 神谷清隆(5・11)

大府 久野喜孝(5・11)

美濃 市原鶴枝(5・11)

土岐 宮地順造(5・11)

木津川 中野重高(5・11)

生駒 中谷尚敬(5・11)

議員

西条 楠 學(5・11)

田川 高瀬春美(5・11)

日田 杉野義光(5・11)

須賀川 小野宗司(5・11)

須賀川 渡辺忠次(5・12)

小千谷 風間順一(5・12)

砥波 山田幸夫(5・12)

かほく 杉本成一(5・12)

飯田 中島武津雄(5・12)

茅野 島立雄幸(5・12)

塩尻 塩原政治(5・12)

佐久 並木茂徳(5・12)

南足柄 服部俊作(5・12)

佐野 笠原敏夫(5・12)

鴻巣 岡崎清敏(5・12)

磐田 八木啓仁(5・12)

津島 加藤忠篤(5・12)

犬山 稲垣民夫(5・12)

江南 木本恵造(5・12)

岩倉 岸 孝之(5・12)

高山 蒲 建一(5・12)

多治見 岡田智彦(5・12)

泉大津 清水 勝(5・12)

上天草 堀江隆臣(5・12)

竹田 荒巻文夫(5・12)

登米 星 順一(5・13)

十日町 涌井 充(5・13)

糸魚川 倉又 稔(5・13)

駒ヶ根 木下力男(5・13)

茅ヶ崎 中嶋皓夫(5・13)

太田 高橋美博(5・13)

副議長

栗原 小岩孝一(5・1)

東松島 五ノ井惣一郎(5・1)

関 市川隆也(5・1)

朝倉 舟木正之(5・1)

大野城 香野信儀(5・1)

豊後大野 首藤正光(5・1)

大町 大厩富美(5・7)

大和 菊地 弘(5・7)

大垣 中沢清子(5・7)

桜井 土家靖起(5・7)

美作 道上政男(5・7)

延岡 内田喜基(5・7)

坂井 前川重雄(5・8)

鶴ヶ島 五伝木隆幸(5・8)

御所 米田絹代(5・8)

津山 川端恵美子(5・8)

三原 白須 均(5・8)

丸亀 高木康光(5・8)

郡山 会田遠長(5・11)

諏訪 平林治行(5・11)

国分寺 川合洋行(5・11)

横須賀 渡辺和俊(5・11)

沼田 石田宇平(5・11)

茂原 深山和夫(5・11)

山武 高橋 忠(5・11)

春日井 後藤正夫(5・11)

安城 近藤正俊(5・11)

議員

碧南 倉内成幸(5・13)

北名古屋 大田考則(5・13)

山県 後藤利瑛(5・13)

西海 中野良雄(5・13)

須賀川 下村晴憲(5・11)

西条 大澤忠正(5・11)

田川 竹内徹夫(5・11)

日田 城野礼子(5・11)

佐伯 宮脇保芳(5・11)

白河 山口耕治(5・12)

須賀川 村山廣嗣(5・12)

小千谷 岩淵 清(5・12)

魚津 浦崎将隆(5・12)

砥波 井上五三男(5・12)

かほく 金田正信(5・12)

飯田 清水可晴(5・12)

茅野 細川治幸(5・12)

塩尻 中原巳年男(5・12)

佐久 和嶋美和子(5・12)

南足柄 保田建一郎(5・12)

佐野 蓼沼一弘(5・12)

鴻巣 矢部一夫(5・12)

磐田 鈴木昭二(5・12)

豊川 野中泰志(5・12)

津島 後藤敏夫(5・12)

江南 古田富士夫(5・12)

岩倉 須藤智子(5・12)

高山 車戸明良(5・12)

多治見 中山勝子(5・12)

泉大津 大久保 学(5・12)

上天草 新宅靖司(5・12)

議員

大府 高池文夫(5・11)

美濃 太田照彦(5・11)

土岐 山内房壽(5・11)

木津川 片岡 廣(5・11)

生駒 下村晴憲(5・11)

糸魚川 保坂良一(5・13)

駒ヶ根 坂井昌平(5・13)

茅ヶ崎 白川静子(5・13)

太田 伊藤 薫(5・13)

日高 唐沢アツ子(5・13)

瀨戸 水野勝美(5・13)

碧南 磯貝幸雄(5・13)

犬山 岡 寛(5・13)

北名古屋 沢田哲(5・13)

山県 影山春男(5・13)

井原 鳥越孝太郎(5・13)

西海 中里 愷(5・13)

事務局長

札幌 早瀬龍宏(4・1)

岩見沢 森本英俊(4・1)

北斗 菅藤邦夫(4・1)

新庄 大場和正(4・1)

寒河江 柏倉隆夫(4・1)

伊達 高橋信弘(4・1)

松本 林 純(4・1)

諏訪 平出善一(4・1)

駒ヶ根 竹村 弘(4・1)

大町 山下鈴代(4・1)

昭島 鈴木敏昭(4・1)

国立 武川早苗(4・1)

中央 奥田春光(4・1)

議員

鈴鹿 浅野正士(4・1)

東大阪 竹内良廣(4・1)

池田 桶谷正夫(4・1)

貝塚 児玉和憲(4・1)

泉佐野 竹内延吉(4・1)

富田林 東 茂一(4・1)

大東 平井正俊(4・1)

御所 喜多伸雄(4・1)

津山 坂手宏次(4・1)

三次 竹添隆樹(4・1)

萩 三原正光(4・1)

吉野川 藤井通博(4・1)

大洲 城戸秀光(4・1)

宿毛 岩本昌彦(4・1)

南国 小原正子(4・1)

北九州 三坂敏博(4・1)

大野城 二田公一朗(4・1)

山鹿 幸村英晃(4・1)

日田 藤井 治(4・1)

竹田 後藤栄三(4・1)

小林 川野隆志(4・1)

日向 坂本行雄(4・1)

鹿屋 飯屋園 信(4・1)

いちき串木野

白井喜真(4・1)

伊佐 山下和弘(4・1)

田川 阿納 勲(4・10)

豊後高田 甲斐智光(4・16)

小松 石山雄一(5・1)

島田 鈴木昌之(5・1)

赤磐 平尾博文(5・1)

議員

佐伯 河原盛寛(5・1)

# 財政措置強化を要望

## 三島病院協会長が議連で

全国自治体病院経営都市議会協議会会長の三島進・松江市議会議長は6月12日、東京・日本都市センター会館で開かれた自治体病院議員連盟(会長＝津島雄二・衆議院議員)の役員会に出席し、自治体病院の経営改善について要望した。

当日は、全国自治体病院開設者協議会、社団法人全国自治体病院協議会の代表者らが出席し、最優先の重点要望として、医師確保対策の実行に要する財源の確実な確保を求めるとともに、平成22年度診療報酬改定への重点要望として、一般病棟入院基本料の抜本的見直しや、急性期医療の評価見直しなどを訴えた。

地域医療の中核を担っている自治体病院は、4分の3以上の団体が赤字経営となっており、厳しい運営を強いられている。また、山積する地域医療問題の中でも、特に勤務医不足の影響は、診療科の縮小・廃止に止まらず、病院が休止や閉院に追い込まれるという事態を引き起こしている。

そのため病院協会長の三島・松江市議長は、今後も積極的に良質な医療を地域住民に提供できるよう、財政措置の充実・強化、地域医療を担う医師の養成、勤務医の労働環境の改善、女性医師の働きやすい職場環境の整備、など、地域医療の再生に向け関係予算の拡充を訴えた。



自治体病院議員連盟役員会で要望する三島病院協会長(中央、松江市)

## 欧州都市行政調査団が出発

本会の平成21年度欧州都市行政調査団(団長＝大久保真一・松本市議会議員)は7月1日、フランスのイヴリ・シユル・セーヌ市など3カ国6都市の行政調査に向け出発する。

調査団は、各都市の議会や関係機関を公式訪問し、地方自治制度や市議会の実態を調査するとともに、「都市環境整備(リサイクル対策)」「自

### 行事予定

- 7月3日 都市行政問題研究会(監事会)(午後3時半、全国都市会館)
- 7月7日 全国高速自動車
- 7月8日 都市行政問題研究会(役員会)(午後3時、相模原市)
- 7月1日(水)～9日(木)【調査期間】
- 【参加市数・人数】
- 14市・20人
- 【主な訪問先(予定)】
- フランス(イヴリ・シユル・セーヌ市議会、コンピエーニュ市、パリ市、スウエーデン(ストックホルム市議会、ドイツ(ギーゼン市議会、ハイデルベルク市)
- 道市議会協議会(正副会長・監事・相談役会議(午後2時、日本都市センター会館)

## 日本全国「ご当地のヒミツ」

フリーライター 永浜敬子

### 沖縄県の巻

南国らしく、マイペースでおおらかな沖縄人。沖縄の気風を表現する言葉に「テーゲー主義」というものがある。テーゲーとは、おおよそとか「だいたい」「ほどほど」「適当」という意味をひっくりくるめ

### 時の話題



たような言葉。台風で屋根が飛んでも「ま、いっか。待ち合わせの時間に少々遅れても「ま、いっか」と、悪くいえばいい加減なのだが、他人の失敗に対して「ま、いっか」と大目に見てしまふ心の広さと優しさがあるともいえる。

沖縄には本州と違う習慣が数多くあるが、なかでも初めて沖縄に旅行したときに驚かされるのが、タクシーやバスの停め方である。タクシーは運転手と目を合わせ、バスは手を水平にして横に上げる。

イメージとしては、手を上げるというより、行く手を遮って車を停める感じといえはわかるだろうか? いずれもアイコンタクトが重要となる。

さらに驚くことに、バスは停留所待っていても、手を上げないと素通りしていつてしまうのだ。電車の通ってない沖縄は、車社会なので渋滞を緩和するために、なるべく口スを減らすための習慣といわれている。最近では街中などではバス・スルーは少なくなくなってきたが、覚えておかないとおいてけぼりにされるので要注意。

また、出生率全国1位の沖

縄は、結婚式も派手で、招待客は少なくとも二〇〇人。三〇〇人くらい招待するのが一般的で、沖縄舞踊「かぎやで風」で始まる余興も盛大。踊りあり、歌あり、芝居あり。それも、時間をかけて練習した凝った出し物が多い。残業も「余興の練習だから」と言えば「ま、いっか」と許される。

ほかに、ぜんざいといえは、小豆ではなく、金時豆を煮たもので、かき氷と一緒に食べるのが一般的。また、桜といえはソメイヨシノではなく寒緋桜。一月に咲くもので、色は濃いピンクである。

また、みそ汁といえば、本州では副菜扱いだが、沖縄ではこれがメインとなるくらい具たくさん。超ボリユームで、ご飯もついてくる。豚肉や野菜、豆腐ときに魚が丸ごと入ってくるケースもある。

そして、沖縄の一般的な飲食店は料理一品につき、白いご飯とみそ汁(こちらは普通サイズ)がついてくるので、「みそ汁にご飯とゴーヤチャンプル」などと頼むと途方に暮れることになるのだ。